

	第2回第2部会における主な意見等	備考
現状	市民と議会が乖離している。議員はいろいろな情報に基づいて決定しているが、その情報が市民に伝わっていない。	市民との乖離
	議員が身近ではない。	
	議員が何をしているのかわからない・見えない。	
	市議会の基本的な情報がわかっていない。	市民の情報不足
	日本の中で政治教育が欠けていて、政治のしくみ等がわかっていない。	無関心・政治不信
政治に関心が薄い、政治不信が高まっている。		
目標	議会の関心度を高めていくことが市民参加になる、究極の目標は関心度をどこまで上げられるか。	
	市民が『千葉市に住んで良かったな』と思えることが究極的な目標ではないか。	
	究極の市民参加は選挙であり、投票率100%を目指すことを成功指標として、どうしたら投票率を向上させるか考えるべき。	
対策	議員が市民の中から選挙で選ばれてきているので、まずは議員の中で市民参加について議論すべき。	市民に市議会をわかってもらう。
	市民の意見をくみ取っていけるのか、議員活動の中で確認していくことが大事。	
	もっとアピールして市民から意見を出してもらえる状況をつくる。	
	市政は市民が参加すれば政策として実現するものだということを実感してもらえよう意識啓発をしていく。	
	市民に議会が自分たちの声を取り上げてくれるという認識を持ってもらう。	
	市民ひとりひとりに市議会とはこういうものなのだ。という認識を持ってもらう。	
	市民に市議会が市民の代表者で、いろいろな形で意見を取り入れていけるということを伝えて行くべき。	
市民に議会が身近であり、自分たちの代表者で一所懸命議論しているかを理解してもらうことが重要。		
具体化	アンケートや傍聴者との懇談会を実施し、市民参加について市民の意見を直接聞くことが最優先ではないか。	市民対話会 議会報告会
	議会として市民と接する場を設けていくことが市民参加につながっていく。	
	議会報告会などで市民と対話することで双方向で意見交換をすることで、乖離を防ぐ。	
	二元代表制として議長記者会見を実施すべきでは。	議長記者会見
	議会内にLAN整備やグループウェアの構築を進めるなど議会のICT化を図る	ICT化
その他	政治参加の窓口を開いていると、参加したい人だけが参加するというノイジーマイノリティをつくってしまう。	
	意義や目的についての意見をまとめるときに抽象的な表現を使わない方がよい。	
	目的と意義は抽象的でないのではないか。	